



No. 24

東京ブランチ合宿のご案内

第7回合宿研修会をつぎのとおり開催いたします。みなさんのご参加を心からお待ち申しあげております。

- と き 94年2月25日(金) 5PM - 27日(日) 3PM
2月18日 - 2月20日を予定していましたが、会場のつごうから第4週末となりました。ご注意ください。
- ところ 埼玉県上尾スポーツ研修センター(埼玉県上尾市)
- かいひ ¥12,000(2泊3日)
2月26日 - 2月27日の1泊2日も受付けますが、26日 9AMには会場着としてください。この場合の会費は事務局にお問合わせください。
- 定員 80名(先着順)
- 内容 Book 16 DancesおよびA Branch Book Dances講習・パーティ
講師は東京ブランチ関連のTeacher 多数。
- 運営 東京ブランチ役員ならびにボランティア
- 申し込み方法 同封の郵便振替用紙(郵便局備え付けの用紙でも可)の裏面に合宿参加希望と記入し、会費とともに、
口座番号 東京6-64023
加入者 RSCDS東京ブランチ
あて個人個人で申し込んでください。
- 申込み締切り 94年1月20日(当日消印有効)または定員になり次第締切り。

ブランチショップ

RSCDSの録音音楽、ブック、アクセサリ、ステーショナリがお求めいただける年1回のブランチショップを開店いたします。品物の内容とねだんは、Bulletin No.71の69ページ(録音音楽、ブック)～および73ページ(アクセサリ)にのっています。

入手ご希望のかたは同封の注文書に必要事項を記入され、ブランチ事務局にお送りください。代金は郵便振替でご送金お願いいたします(合宿会費と同時送金可)。

注文締切り 94年1月20日(当日消印有効)

現品発送 3月末の予定です。

ブランチ10周年記念行事

10月18日、ボランティアとブランチ委員があつまり、17名（当日欠席5）からなる実行組織がスタート、活動をはじめました。行事の企画と役割担当は下表のとおりです。各委員あて意見、要望、『私も加わらせて』のお申し出でなど、多数お寄せください。（大間知良一）

行 事	企画類	実行委員	内 容
コーディネーション	現三役		
指 導 者 招 請	松橋	(共通) 渡辺(清) 風間 鳥山 五十嵐	ビル・アイランド(ダンサー、ティーチャー)と ジェニファー・ウィルソン(ダンサー、ピアニスト) を招き、 地方でのクラス(3,4所): 9.10(こ) - 9.22
特 別 ク ラ ス (ウィークエンド・スクール)	佐藤 (仁)		
関東以外での行事	小川	掛川 大間知	特別クラス(関東): 9.23 - 9.24
記 念 ボ ー ル	岡田	大野 五十嵐	記念ボール(関東): 9.25 をおこなう
新ダンス・新曲募集	小幡	稲垣	別項参照
マーク(ロゴ)募集	田村	近藤(アボイス 岡田)	別項参照
10年の歩み(記録) 作成	池間	大間知 鳥山	94年年会報を特別号とし、 これに収録
事 業 会 計	五十嵐	福島	予算の規模は今後調整

新曲およびマーク募集のお知らせ

前述の行事予定表のとおり、東京ブランチでは創立10周年を記念して創作の踊りと音楽の曲集を発行し、ブランチのマークを制定する計画で、つぎの要領でみなさんからの作品を募集いたします。ふるってご応募ください。

1. 新ダンス・新曲募集

これから作るダンス・音楽だけでなく、手持ちの曲でも冊子やリーフレットとして発行していなければOKとします。

- ・1人3ダンスまたは1人3曲まで。 ・題名をつける。
- ・作った日付を記入する。 ・コメントがあれば記入する（～さんに捧げる、～を記念して、等）。
- ・日本語か英語で表記し、ダンスにはダイアグラムも添付する。

<締切り> 1994年4月末日

<応募および問い合わせ先>

稲垣 俊 〒370 高崎市上中居町 290 ☎0273-27-3886

2. マーク(Logo)募集

旗、バッジ、ペンダント、Tシャツ、トレーナー、レターヘッドなどの文書に、格調高く、長く会員に愛されるマーク(Logo)をつけ、ランチ・メンバーの意気を高めようではありませんか。

- ・A4サイズの白紙に、直径10センチの円型または10センチ角の大ききで折らずに提出する。
- ・余白に作者氏名(資格不問)を記入する。
- ・黒1色とする。
- ・RSCDS TOKYO BRANCH(大文字のみ)を図案のどこかににのせる。
- ・1人3図案まで。

<締切り> 1994年4月末日

<応募および問い合わせ先>

近藤幸子 〒114 北区滝野川 7-2-7-401 ☎03-3916-5051

RSCDS Bulletin No.71の概略

ランチレポートが昨年より削られ、みどころが少なくなりましたが、ブリティッシュ No.71の概略をお知らせします。

○最初に、ChairmanのMiss Wilma Miller が本部事務所の改修についての状況を記している。こわれた蛇口がことの始まりだったようだ。

○会員数は、15のランチからの報告が締切りに間に合わなかったため概数だが、24,829人と、一昨年までの減少傾向があらわれている。

○ランチ数は変わらず162で、今年(1993)はGlasgow, Edinburghが70周年、Ayr が60周年、Rochdale 50周年、Oxfordshire, Johannesburg が25周年を迎えた。

○アフィリエイト・グループは504と昨年よりも21減った。8グループが加わっ

たが、登録更新しないグループや会費未納のため登録抹消されたグループが、計29もあったためである。

- 出版物関連ではBook 16の曲が Bobby Cloweの演奏でLPとカセットでつくられた。また以前録音された曲から選んで、2枚のCDをつくった。最近つくられた踊りを収めた Book 38をまとめたが、これは1994年のSubscription（会員には無料配布）になる。
- Examination はセント・アンドルーズ、北アメリカを始め、14か所で行なわれ、Preliminary は 156人中 117人合格、Teacher は 117人中91人合格であった。
- サマースクールは試験的に日曜日から始めてみたが概ね好評のため、来年も 7月17日から 8月14日までと、日曜日開始を続けることになった。
- その他 Society 創立期の暫定委員会のChairmanだったG.R.Hamilton Cheape 准将の略伝をBill Clement氏が記したり（11ページ）、女性が身につけるサッシュュに関する記事ものっている（59ページ）。
(小幡正明)

会員住所変更

ヘレン・ティボーさんと細川武子さんの住所が変わりました。

Helen Thiebaud P.O. Box 785, Watertown, MA 02272-0785, U.S.A.

細川 武子 464 名古屋市千種区南ヶ丘 1-10-62/A311 052-723-4315

第47回全国レク大会・スコティッシュ分科会報告

第47回全国レク大会東京大会が9月24日～26日にわたって開かれました。25日フォークダンス部門のなかのスコティッシュ分科会に出席しました。武蔵野総合体育館は周りじゅう緑豊かで心が洗われるようなところでした。会場も木の床で弾力があり最高！5～6セットで踊る分にはね。ところがところが、ぞくぞく詰め掛ける多数の人達で超満員。トップバッターの講師鳥山さん「こんなに大勢の方がみえるとはちょっと予想外でした」と本音がチラリ。ステップ練習、全体練習、何をやっても全員に理解してもらうのは至難の技、経験、場数が必要と端っこのほうで考えていました。セットを作るとき、待ちの人が出てはと、同じ思いのメンバー数人と待機。でも皆さんお相手もセットまでも、あらかじめしっかりと定まって入り込む余地なし。踊る場所は多少変わってもパートナーやセットは変わらずの印象を受けました。限られた時間内にステップやダンスのほかにマナーまでは伝えられませぬ。残念ですが。

デモンストレーション！ミーハーの私としては面白く拝見しました。「ハワイに行った時ブランドンさんに教えていただいた曲でね、音が悪かったので友人の息子さんが採譜してシンセサイザーで弾き直してくれたの、良かった？そう言って頂くと会員が喜ぶわ。練習時間や、人数が揃わなくて大変だったの」とリーダーのお話し、正確

に美しくとティーチャー方のデモは勿論素敵だったけれど色々と遣り繰りをして仕上げたデモもよろしいのではありませんか。間違えないようにと一生懸命踊った皆さんに拍手！でした。大部分の方はFDのなかで一度はスコティッシュを踊ったことのある人達と思いますがなかには、ダンスが始めてという若いカップルが居ました。チャマンが最初から付きっきりでお世話してました。何とかスコティッシュの良さを分かってもらおうと汗びっしょりかいて頑張っていました。多分好印象を持って帰られたものと信じています。都FD連の係り4人の方々お世話になりました。

(田村妙子)

マドリッドでウィークエンド・スクール

スペイン・マドリッドの"The Schiehallion Group Madrid" からウィークエンド・スクールの案内がきました。会場はプラド美術館から数分のところ、ゴヤ、ベラスケス、ボッシュを見物がてら、春休みにマドリッドにいらしては。

日 時 1994年4月2日(土) - 3日(日)
講 師 Derek Haynes (Teacher), Jennifer Wilson (Pianist)
バンド Craigellachie Band
費 用 宿泊費込み30,000ペセタ(¥25,500) 通いは15,000ペセタ
締切り 1994年 1月25日
連絡先 "RSCDS Madrid-Easter 1994"

参加ご希望のかたは、申し込み用紙(ブランチ事務局にあり)を直接上記連絡先にお送りください。

- 6-10月のソサエティ専門委員会議事録から話題をひろいました。
- 本部短信** 重要事項の最終結論はBulletin, AGM, ECM報告をご参照ください。
- 総括委員会 ジャワ(インドネシア・ジャカルタ)、ペニクック(スコットランド)およびチングフォードのグループがAffiliated Groupとなった。
2. レトフォード・ブランチの結成準備が承認された。
 3. 広報活動やチューター・コースにミリガン記念基金の利息が活用されている。
 4. ソサエティは慈善事業団体か、それとも株式会社組織か?……現状は慈善事業団体らしい。慈善団体運営に関する法改正(スコットランド)に対応するため、小委員会が発足した。基本規約改正や本部-ブランチの関係の見直しにつながりかねない問題とのこと。
 5. Oxfordshire Branchが Branch Logoに、RSCDS の“王冠”をいれることについて了承し、Australian Teachers Association のLogo図案を承認した。
 6. バンド・リーダー Colin Finlaysonの葬儀に、ソサエティを代表してVice

Chairman, Mr G. Lawson が参列した。

○財務委員会 サマースクール1993は大幅な収入減で、来年のスクール参加費についてサマースクール委員長と次回の会合で話し合う。

2. ケニヤ通貨の下落により、本部への年会費払い込みが負担となっている、とのナイロビ・ブランチからのレターあり。同情できるが、本部として手の打ちようがない。

○調査出版委員会 Book 38 のダンス内容を一部変更した。

とりやめ: "Craigmoor".

かわりに: "Mr Robert Mackay" (Strathspey) devised by Jurgen Munz.

なお、演奏はMuriel Johnstone's Band で、LP 1,000枚・カセット 500本を制作し、ビデオも94年の 2ないし 3月に収録する。

2. "Index of Scottish Country Dances"、現ポケット版サイズを再版時にマニュアル・サイズにする、という委員会決定が執行評議会で否決されたが、コストの面でどちらが有利か、さらに検討する。

3. Book 17 音楽のLP、カセット制作にゴーサイン。引き続いてBook 18 も検討に入る。

4. Book 37 ダンスのマニュアルへの挿入注記 3曲ぶんを承認した。たとえば、
"Reverend John MacFarlane". Bars 28-32 3rd man must complete the left hand turn politely before entering the reel at the beginning of the repetition. 3rd woman acknowledges but continues to dance out.

5. イタリア・ポローニャのグループ、Societa di Danzaから、会員のためにマニュアル1-4章をイタリア語に訳したいとの申し出があり、許可した。

○試験委員会 チューター・コース開催を知らせたところ、困るほどの参加申込みがあった。ブランチあたり2人に制限し、40人のクラスで実施する。

2. ミュージック・コースは 9月25日現在、ピアニスト10人・アコーディオニスト2人の申込みである(10月31日締切り)。

3. "Syllabus for Teaching Beginners" をマニュアルにあわせて見直しを行ない、印刷にまわした。

4. 試験官の選定基準の見直し、選定落ちの場合のフォロー、北アメリカ在住の試験官などについて詳細な検討、論議がすすめられている。

○サマースクール委員会 1995年(再来年)はセント・アンドルーズで全英オープンゴルフがあるため、7月24日(月)からスクール開始となる予定。

五つの専門委員会は、直接には執行評議会(ECH), 究極にはAGMが責任を有するため委員会決定が ECH, AGMで否定されることがあります。上記の事項は、そのような変更があり得る、とお含みおきください。

(大間知良一/鳥山豊喜)

We danced

Noshiro "Winds", 10-12am, 31-3-1993.

Maxwell's Rant	32R	18
Quaich	32S	Drewry
Angus Macleod	64R	Queen
Mucklestane Moor	32S	Foss

Sendai Scottish Country Dance Club, 6.30-9pm, 17-3-1993.

Duke of Perth	32R	1
Miss Gibson's Strathspey	32S	Lflt

Niigata Scottish Country Dance Club, 10-12am, 16-4-1993.

Gothenburg's Welcome	32J	37
Cramond Bridge	32R	London
Cherry Blossoms	32S	Boyd
Rob Roy	32R	Foss
Express	40J	20

"Aunties", 9.30-12am, 16-4-1993.

Holyrood House	48J	22
Burn's Hornpipe	32R	27
Frog in the Middle	32J	Misc II
Mairi's Fancy	32S	28

Thistle Society, 7-10pm, 19-3-1993.

Miss Hadden's Reel	32J	23
Lamb Skinnet	32J	14
Irish Rover	32R	Cosh
Up in the Air	32S	20
Duke and Duchess of Edinburgh	40R	Edinburgh

"Thistle", 10-12.30am, 5-4-1993.

Flowers of Edinburgh	32R	1
Seton's Ceilidh Band	64J	Morison's Bush
Railway Man	32S	Nottingham

Kawagoe Scottish Flora's, 1-4pm, 9-3-1993.

Magic Moments	32J	
Silver Tassie	32S	Lflt
Corn Rigs	32R	4
Miss Milligan's Strathspey	32S	Lflt
Rangitoto	40J	Auckland Region
Rob Roy	32R	Foss
Wisp of Thistle	32S	37
Queen City Salute	32S+32R	37
Airdrie Lassies	48J	26

Miyashiro Scottish Country Dance Group, 1-3.30pm, 26-3-1993.

Wild Geese	32J	24
Corn Rigs	32R	4
White Heather Jig	40J	Cosh
Reel of the Royal Scots	32R	Lflt
Polharrow Burn	32R	Foss
Irish Rover	32R	Cosh
Junko and Her Fellows	32S	Urawa
Gang the Same Gate	32S	36

Scottish Country Dance Group "Iris", 1-4pm, 20-3-1993.

Maggie Lauder	32S	10
Junko and Her Fellows	32S	Urawa
Cubbie Roo	32J	Attwood
Gothenburg's Welcome	32J	37
Wisp of Thistle	32S	37
Bees of Maggie Knockater	32J	Drewry

Urawa Scottish Country Dance Group, 6.30-9pm, 1-4-1993.

St Andrews Fair	32J	5/82
Reel of the Royal Scots	32R	Lflt
Wisp of Thistle	32S	37
Duke of Perth	32R	1
Frisky	32J	26
Millbrae	32R	Urawa
Fugal Fergus	48J	Foss
Gang the Same Gate	32S	36

Yono Scottish Country Dance Club, 1.30-3.30pm, 16-3-1993.

De'il amang the Tailors	32R	14
Machine without Horses	32J	12
Lady Auckland's Reel	32S	18
Rangitoto	40J	Auckland Region
Peter's Farewell	32R	Auckland Region
Wicked Willy	32R	Ways

Scottish Country Dance Group "Bobbins", 9.30-12am, 23-3-1993.

Reel of the Royal Scots	32R	Lflt
Gothenburg's Welcome	32J	37
Wisp of Thistle	32S	37
Spey Royal	32R+32S+32R	Guisborough
Squirrel	32J	Boyd

Kashiwa Scottish Country Dance Club, 2-4pm, 3-4-1993.

Corn Rigs	32R	4
Bonnie Anne	96J	SD II
Schiehallion	64S+64R	Thurston

Yachiyo Scottish Country Dance Club, 6.30-9pm, 17-3-1993.

Miss Alison Little	32R	Holden
Adiue Mon Ami	32S	24
John Paul Jones	32R	Drewry
Pool of Connla	32S	Archives

Ohmiya-dai Scottish Country Dance Club, 10-12am, 10-3-1993.

Angus Macleod	64R	Queen
Drummer	48R	20
Braes of Atholl	40S	8

Katsushika Scottish Country Dance Club, 1-5pm, 28-3-1993.

Ladies' Fancy	32J	13
Corn Rigs	32R	4
Lea Rig	32S	21
Wee Cooper O' Fife	40J	Foss
Celtic Kiwi	32R	Drewry
Sugar Candie	32S	26
Black Barony	32R	Attwood
Waverley	48J	15
General Stuart's Reel	32R	10

Shinjuku Country Dance Club, 6.30-9pm, 5-4-1993.

Sanday Butterly	48J	
Fairy Bridge	32J	Priddey
Farewell to the North	32J+32S+32R	Barbour
Dancing Master	96J	Drewry
Cherry Blossoms	32S	Boyd

Akabane Scottish Country Dance Club, 7-9pm, 2-4-1993.

Johnnie's Welcome Hame	40R	32
Wild Geese	32J	24
Petronella	32R	1

Happy Scottish Country Dance Club, 1-4.30pm, 17-3-1993.

De'il amang the Tailors	32R	14
Miss Hadden's Reel	32J	23
Sunday Morning	32R	5/82
Maxwell's Rant	32R	18
George Square of Edinburgh	96R	

TS Scottish Country Dancers, 6-9pm, 10-4-1993.

Highland Fair	32J	Graded Book
Kingston Flyer	32R	Boyd
Bridge of Nairn	32S	13
Provost Wynd	32R	Goldring

Koganei Scottish Country Dance Group, 1-4pm, 27-3-1993.

Miss Jeannie Carmichael	32S+32R	Gruskin
Dancing Master	96J	Drewry
Jennifer's Jig	32J	Drewry
Wisp of Thistle	32S	37

Tsukushino Scottish Country Dance Club, 9.30-12am, 8-3-1993.

Thirteen Fourteen	64S+64R	Drewry
Miss Jeannie Carmichael	32S+32R	Gruskin
Mrs Stewart of Fasnacloich	32R	Lflt

Gifu Scottish Country Dance Club, 7-9pm, 23-3-1993.

Cromdel Hill	32R	McConachie
Hollin Buss	32J	24
Dundee Whaler	32S	Clowes
Reel of the Royal Scots	32R	Lflt

Kansai White Heather Dancers, 6-9pm, 3-4-1993.

Clansman	32R	32
Miss Gillian McMullen of Cambridge	32S	Russell
Gothenburg's Welcome	32J	37
Rothsay Country Dance	48J	6
Cuillins of Skye	32S	4/78

Moji Scottish Country Dance Club, 8-9.30pm, 14-4-1993.

Caledonian Rant	32S	16
Cherry Blossoms	32S	Boyd
Leith Country Dance	32J	18

Munakata Scottish Country Dance Club, 10am-4pm, 14-3-1993.

Linton Ploughman	32J	5
Light and Airy	32J	4
Duke of Perth	32R	1
General Stuart's Reel	32R	10
Dalkeith's Strathspey	32S	9

"Flora", 10-12am, 19-4-1993.

Corn Rigs	32R	4
Miss Hadden's Reel	32J	23
Maxwell's Rant	32R	18

スコットランドは思い出がいっぱい

この夏は14名のかたがサマースクールに参加し、そのほかにも日本から二つのダンシング・グループがスコットランドを旅してきました。4人のかたから感想、報告をいただきましたので、つぎのとおり掲載いたします。

< 癖になりそうなスコットランド旅行 >

塩谷 アイ

かないそうにもない夢でも、長年もち続けていると、いつかは自然に機会がくるものですね。東京 SCDの30周年記念のTourに参加して8月2日から11日間、たっぷりスコットランドの素晴らしさに浸ってきました。

ビル・クレメントさんと篤子さんのご尽力のおかげで、ティマウス城やブレア城、スコーン城で踊ることができました。極め付けはエジンバラ・ブランチの会員たちにパートナーになっていただいて、夢のような Highland Ballを体験したことです。

St Andrewsではちょうど Mary MurrayさんがTeachers Classを指導していらっしゃるサマースクールを見学しました。夜のヤンガーホールではDemonstration Teamのなかに松橋順子さんが入って踊っておられました。

アバディーンでは John Drewry, Bobby Watson, Lesley Martin の方々と会食後、John Drewryが新作の"Rose of Glamis"を指導してくださいました。アボインへいく途中、MonymuskとMaggielockater の標識を見たときの感激！アボインでは雨の中の Highland Games。現地で見るのは、また別の味わいがありました。インバネスからネス湖のアーカート城へ。嘆きの谷グレンコーではマクドナルド一族の悲惨さに 300年も歳月が流れているとはいえ、往時を彷彿とさせるものがありました。ケンモアの夕食時、クレメントさんがハギス・セレモニーを主催してくださり、そのハギス、思いのほか美味しいものでした。エジンバラへ帰る途中で見たSchiehallionの山。南下してロバート・バーンズが晩年をすごしたダンフリースまでには、Neidpath Castle や

Group Notice Board

1994/ 2/13 (日) 10.00-16.00 新宿CDC 9周年パーティ グランドヒル市ヶ谷
¥6,000 申込み締切り 1/25 増本サチ子 03-3357-4776
1994/ 3/ 6 (日) 12.30-16.30 ISスコティッシュ・カントリー・ダンス Annual Ball 94 ¥1,000
筆筒町区民センター 長谷川美佐保 0424-21-5894

Drumelzierをとおり、アニー・ローリーの生家、ドラムランリグ城等々、旅行中地名にちなむダンス名のその場所を、30ほども経由し、そのたびに感激しました。篤子さんにガイドしていただきましたが、ダンス名につながる人名や地名などの話をふんだんに伺うことができ、実りのある旅行でした。

エジンバラ城のMilitary Tattooは、まだ空が明るい午後9時から始まって、“よくぞスコットランドに生まれけり”という思いを馳せさせる、あつという間の1時間半でした。バグパイプ大好き人間の私は、パイプの洪水の中にどっぷり浸りきりで、このうえない幸せを感じてきました。プリンスズ公園、8月3日夜のダンス・プログラムは東京 SCDの方がデモを踊られました。翌日の夜もCarnoustieのパーティに遠征し、ホテル帰着が11時となったりして、ずいぶんハードスケジュールでしたが、その分たっぷりスコットランドの旅を踊り、エンジョイできました。

この計画を大変なご苦勞で立案・実現してくださった宮川さんご夫妻、それに応えてくださったクレメントご夫妻、そして同行の31名の方たち、ほんとうにお世話になり、ありがとうございました。(のしろWinds)

<英語のレッスン?>

川分 康博

去年の暮れ、関西にも有資格のSCD指導者が必要だとその妻の意見に同調し、夫婦で Preliminary Examination受験を決意しました。ところが、子供ができたからおれひとりでもいくといていたのが本物となり、妊婦をのこしていくんだって、という非難の視線を感じつつ、今夏St Andrewsにいつてまいりました。

さて、Class は月曜日からはじまりました。Teacher: Mr George Lawson, Pianist : Miss Alice Mann という組み合わせは、先達小川義忠さんのときと同じで、心強く感じました。宿題には手をやきました。みんなが長いレポートを提出するのを横目で見ながら、私は一枚ぼっきりのレポートを提出していました。今回Schoolに参加した感想をひとことという、英語がもっとよくわかればなー、となります。トレーニング中、Teacher のいうことはだいたいわかるけれど、もっとはっきりわかればなーと思うことはたびたびでした。Dance やTeaching method については小川さんに指導いただいていたので、それほど苦勞せずすみしました。昼食をはさんで朝から晩までのトレーニング、そして毎夜のSocial dancingで忙しい日々でした。

こうして一週間があつというまにすぎました。週末もクラスメートの自発的な勉強会があつたりして、結構忙しい思いでした。一緒に勉強できるのはうれしいのですが、やはり言葉という問題があり、あとでひとりで考えなおさないとわからないので、私には二度手間でありました。二週目の水曜日はWriting, 木曜日Dancing, 金曜日はTeachingの試験、というスケジュールでした。Writing はあなたの一番苦手な試験ね、とみんなからいわれ、前日のSocial dancingもほとんど踊らずに準備したほどです。

辞書2冊をもちこんで万全の意気込みでのぞみました。実際は答案をかきまくるのに必死で、辞書をひらく余裕などなかった、というのが本当のところですよ。

試験後、Lydia(彼女は自信がないからと Examinationを辞退)からみんなにケーキのプレゼントがあり、うれしい思いでいっぱいになりました。

Teachingの試験は生徒にランチ・セクレタリや後藤雅子さんをはじめ、比較的よく知った顔ぶれが多くいて、おちついて指導することができました。クラスメートのなかにはものすごくナーバスになっている人がいて、試験の前にみんなで抱き合って励ましあっていました。私は外国人とつきあうたびに、習慣は違いますが人間みな同じだなと感じるのですが、今回もまたそういう感を強くしました。

日曜日にSt Andrewsをあとにし、Edinburghに移ったのですが、翌月曜の夜、懲りもせずPrinces GardenのSCDにでかけました。そこでRSCDS本部のOffice Manager Mrs Eileen Wattに出会い、『あなた合格しているわよ、おめでとう』そしてSchoolで知り合った何人かにも再会し、みんなでEdinburgh在住の会員の家に押しかけて、お茶をごちそうになったのです。翌日、私はやっと日本へ帰れるという喜びと、帰ったら仕事かという憂鬱と、ふたつを抱えて帰路につきました。

ご指導くださった小川さんをはじめ、ランチのみなさんに感謝しております。

(関西WHD)

<楽しかったPreliminary Examination >

林 浩子

Scottish 3, English 5, Irish 2, American 2, Canadian 1, そして私Japanese 1という14人のメンバーでトレーニングははじまりました。(途中1人がリタイア)。13人は英語が母国語、先生はふだんの早さで語るわけで、これには苦労しました。そう、Teacher: Alex Gray, Pianist: Pat Clarkです。午前中はトレーニング、午後もこれに加えて短い講義、夜は宿題と忙しいのですが、毎晩どこかでひらかれているSocial Dancingにときどき(かなりかな?)いって気持ちをリラックスさせました。

一週目の終わりからTeachingの訓練に入りました。このころになると、ナーバスになって先生の指導や注意に陰で涙をながす人が続出してきました(なかには数回、男性でさえも)。泣くこともなく、落ち着いていられる秘訣はなに?と、私はよく尋ねられました。私は、Preliminary Examは自分がいままで練習してきたことや知識、トレーニングで教えられ身につけたことを、試験官のまえでしっかり表現できればなんにも問題はない、と常々思っていました。トレーニングをうけ、自分がすこしずつでも進歩していくのがうれしく思え、毎日がとても楽しかったからでしょう。

今回受験するにあたり推薦していただいた松橋順子さんから、『むこうでステップを直されるようではダメよ』と、入念な訓練をうけ、浦和SCDGに月に一度通ってこられる長岡の小海弘子さんのピアノでステップ指導を練習させていただいたお陰で、ト

レーニング中ステップを直されることはなく、Dancing もOKで、主としてTeachingについて指導をうけただけですんだのは、とてもありがたいことでした。なんと注意されてもなかなか直せなかったのは、大きな声を出すことでした。先生の『Hiroko, voice projection』の声がいまでも耳に残っています。

さて、筆記試験です。渡された2枚の答案用紙いっぱいを書くことができ、ほっとしました。翌日はDancing。これも関門をくぐり、三日目は最難関のTeachingのテスト、とつづきました。鳥山さんから、楽しい雰囲気をつくりTeachingするよういわれていましたので、時間の配分と、踊ることの楽しさが伝えられるよう心がけました。Pianist, Patは自然に、いつの間に伴奏をいれてくれ、ほんとうに助けられました。Teachingが終り、生徒のみなさんの大きな拍手と、試験官に『日本人のTeachingをうけたのは、みなさん始めてでしょ？楽しかったわね』と述べていただいたとき、始めて目の中があつくなるのを感じました。"I enjoyed your dancing and teaching."とにっこりしてくれ、大感激でした。幸せな二週間は、こうしてあっという間に終わりました。お陰様で合格することができました。諸先輩の丁寧なご指導、みなさんの暖かいバックアップに心からお礼申し上げます。(TS SCD)

<サマースクールの一週間>

後藤 雅子

いつか行ってみたいと思っていたセントアンドリュース・サマースクールに、やっと参加することができました。ほんとに短い一週間コースでしたけれど、この限られた時間でも、たくさんの素晴らしい経験を得ることができました。

フレンドリーで和やかなアドバンスト・クラス(生徒数約30人)、ヤンガーホールやコモンルームでのパーティ、フランス民謡“フレール・ジャック”の替え歌が出てきたケイリ、エグザミネーションのボランティアと、数多くの行事を楽しみました。

そして、百聞は一見に如かず "Social is First"を実感しました。いままで「ダンシングのときはパートナーを見る。他の人も見る。笑顔を忘れない!」「ことなる文化をもった人たちの踊りなのだから、さまざまなことを学ぶこと」など、日頃の例会やランチ合宿のたびに指導いただいて、なるほどね、とは思っていました。スクールのいろいろな場面で "Social" を体験して、SCDが世界中で愛好され、ここに集うのもこの "Social is First" がみんなの心にあるからだ、と納得しました。

スコットランドの12日間は、文化の違いを肌で感じました。天気にも恵まれ、エディンバラ、スターリングでは足を使って密度の濃い時間をすごしました。セントアンドリュースでも、宿舎からクラス会場のホリー・トリニティ教会ホールまで毎朝かよったパブリック・フットパス(人と犬だけの小道)、ゴルフ・リンクスそばのどこまでも続くなぎさ(なめてみたら北海の水は塩けが薄いみたい)、セクレタリとトレジャラに連れていってもらったパブのラガーの味、2回も紅茶を買いにいって顔をお

ぼえられた店、松橋順子さんと林浩子さんに偶然出会った畑のまん中のルーハス停車場、座席指定など気にせず座れとランチ・セクレタリが言い、みんながそのとおりにした特急列車の旅など、あれは夢だったのではないかと思えるほどです。エディンバラでの最終日の夕刻、前期コースで日本から参加した6人が会食したひとときも忘れることができません。

これからはダンシングだけでなく、スコットランドの音楽、歴史、自然にも関心をもちたいと思っています。こういったことが "Social is First"につながっていると思うのです。もちろん、そのまえに語学能力向上が私の課題です。

クラス・ティーチャーのミセス・ストーカー、ミス・マーティン、ピアニストのミス・マクローリン、日本からの友達、スクールで親切に言葉をかけてくれたバーバラ、イザベル、ルース、ジョージ、ジョン……みなさんの暖かい心に感謝しています。ありがとうございました。
(大宮台SCDC)

箕田弘子さん

ランチ年會報會員名簿の 290番目……

「今晚は、今日は早いネー一番だよ」「今日は早く出られたから基本ステップを練習しようと思ったんです」「じゃ一緒に練習しようか」7月10日(土)午後5時40分、定例会場にて笑顔の箕田さんとの会話でした。帰り際に「7月13日に病院で検査する」とのことを聞きました。病院では検査の結果、即入院だったそうです。

そして8月19日(木)朝、亡くなられたとの連絡を受けました。箕田さんは葛飾SCDCの創立時からのメンバーで、定例会ではいつもニコニコしていて緊張の中の雰囲気その笑顔で和ませてくれるスコティッシュ・カントリー・ダンスの大好きな会員でした。ご家族の方と相談の上、天国でスコティッシュ・カントリー・ダンスが踊れるように、白のロング・ドレス、シューズ、クラブからはおそろいのサッシュ12本のうちの1本を……初めて減ったサッシュ……これ以上このサッシュが減らないことを心から祈ります。さようなら、箕田さん。

(葛飾SCDC・尾身信晴)

事務局から

○下記の会員あてのブランチレターが『転居先不明』で戻ってきました。どなたか消息をご存じであれば、事務局までお知らせください。

南 浩 旧住所 197 秋川市野辺 803/101

難波江 修身 〃 467 名・瑞穂区弥富町清水ケ岡 54-7

転居されたとき、東京ブランチ事務局にも通知をいただくと幸いです。

○ことしもまた本部からサマースクール参加申込書を取り寄せます。参加申込書をご希望のかたは事務局まで電話、はがきでお申し越してください。本部からの入手予定は1月上旬です。

○本部事務室内装のための基金寄付、計11名のかたからご送金がありました。ありがとうございます。8月末の第1次締切りに間に合わなかったため、Bulletin No. 71にお名前がのっておりませんが、本部セクレタリから感謝のレターを受領しております。

○エジンバラにおけるソサエティAGM（11月6日）、出席された松橋順子さんは、幹部クラスの世代交代が進んでいるとの印象をうけたそうです。くわしくは次号のブランチレターでレポートしていただくことにしています。

○ブランチ合宿のあとは会員登録更新、ブランチAGM開催です。期間10年の長期会員になるのはいいのですが、SCDへの情熱と関心がやがてうすれ、事務局からの問い合わせにもまったく返事がない、という困ったことが起こり始めています。会員登録のとき、新規に長期会員になるひとには、『10年間ですよ』を確認しようかと思っています。確認したって、10年さきがわかるのは年齢のみ、ご本人でさえどう暮らしているんだろ、ですけれどもね。

またブランチAGMは、東京ばかりが場所ではあるまい、として1泊2日で湯につかりながらの開催も考えております。

○郵便料金の値上げが来年早々実施されそうです。値上げがブランチ財政にどう影響するか、よくしらべます。郵便振替の口座番号も来年5月から、郵政省電子処理システム対応のため、数字のみに変更されます。

○『Group Notice Board』をご活用ください。次号のブランチレターは来年3月中旬に発行予定です。4月～6月にイベントを計画されているグループは、2月末までにその内容を事務局までお知らせくださると幸いです。未定の項目は“未定”で結構です。投稿、ご意見なども大歓迎です。

RSCDS 東京ブランチレター 1993.12.10 発行

RSCDS 東京ブランチ事務局

222 横浜市港北区篠原北 1-28-25

鳥山豊喜 045-433-4623